株主・投資家のみなさまへ

SMK

第89期 中間経営報告書

2010年4月1日から2010年9月30日まで

SMK株式会社

「価値向上」と「新たな挑戦」
— We have to change to remain the same —

● 企業理念

SMKは可能性の追求を通して総合的な
高度技術により、情報社会の発展に寄与する。

● SMK「行動指針」

1. 社会への貢献を考え、誇りと自信をもって行動する。
2. ユーザーの立場を考え、熱意と誠意をもって行動する。
3. 高い目標を考え、失敗を恐れぬ勇気をもって行動する。
4. 明るい社風づくりを考え、信頼と尊重をもって行動する。
5. 世界の中のSMKを考え、国際的視野をもって行動する。

Contents

中間財務ハイライト（連結）	2
トップメッセージ	3
事業部門別の概況（連結）	5
新製品ご紹介	7
TOPICS	9
事業所のご紹介	10
中間決算概要（連結）	11
株式の状況	13
コーポレートデータ	14

中間財務ハイライト（連結）

売上高

330億2百万円

（前年同期比2.2%増）

売上高は新製品投入などにより、前年同期比2.2%増の330億2百万円となりました。

経常利益

17億6千6百万円

（前年同期比37.7%増）

新製品投入、原価低減活動、固定費削減など諸施策の推進により、前年同期比37.7%増の17億6千6百万円となりました。

中間純利益

11億5千9百万円

（前年同期比23.2%増）

税引き後の中間純利益は前年同期比23.2%増の11億5千9百万円となりました。

売上高

（単位：百万円）

経常利益

（単位：百万円）

当期純利益

（単位：百万円）

1株当たり当期純利益

（単位：円）

総資産額

（単位：百万円）

純資産額

（単位：百万円）

トップメッセージ

代表取締役社長
中村　哲也

当中間期の概況

当中間期における世界経済は、主要国の景気刺激策や新興国を中心とした需要の拡大に支えられ、緩やかな景気回復の過程に入りつつありましたが、日米欧主要国の景気回復に陰りが見えはじめるなど、足許先行き不透明な状況となっております。

日本経済は、政府の景気刺激策の効果もあり回復に向かっておりましたが、急速に進む円高や株安、中国リスク懸念など不安定な要素が多く、景気を下振れさせるリスクは高まっております。

当エレクトロニクス業界も、デジタル家電や自動車向け部品を中心に緩やかな回復傾向にありますが、円高や景気の停滞懸念など取り巻く環境は厳しさを増しつつあります。

当社グループの中間期における連結業績は、携帯電話向け部品が低迷したものの、スマートフォン向けの需要が旺盛であったことや、デジタル家電向け･自動車向けの好調などに支えられ、またコスト構造の見直しの効果もあり、前年同期比で増収増益となりました。今後につきましては、市場ニーズの変化に柔軟に対応すべく、さらなる市場競争力の強化に努めてまいります。また、当社の強みを生かせる市場・顧客に対し、新製品・新技術を提案し続けることで新たな成長を実現させるべく製販一体となって取り組んでまいります。

「価値向上」と「新たな挑戦」—We have to change to remain the same—

世界の情報技術社会は休むことなく進化を続け、ユーザーニーズもますます多様化し、かつてない速さで日々変貌を遂げております。当社はこうした環境の変化に機敏に対応しながら、さらなる発展を目指してまいります。

市場動向をいち早く的確に捉えるマーケティング力、新しい可能性に挑む技術開発力、商品開発と一元化されたフレキシブルな生産体制の確立を目指し、さらに“ものづくり”の原点である要素技術を原点に立ち返って見直す取り組みを推進しています。具体的には、「SMKブランド力の向上」「品質改善（Zero Defect運動）」「ものづくりへの再チャレンジ」に引き続き注力し、それらが生み出す総合力によって、グローバル市場での競争力を向上し、お客様から信頼いただける企業づくりに引き続き取り組んでまいります。

当社は「地球環境との共存」を企業の責務と考え、重要な経営課題として位置付けております。「絶対品質」の追求もその一つであり、不良品ゼロへの挑戦を続けております。ひとつの不良品が生み出すロスは、社益の喪失のみならず、調達、製造、流通、販売まであらゆるチャンネルでの貴重な資源の無駄遣いを招きます。当社はこれからも、不良品ゼロへの真摯な取り組みを続けてまいります。

また、最先端のエコロジー関連機器に使用される部品も幅広く開発し、使用材料から廃棄までを考慮した設計を推進するなど、あらゆる角度から省エネ・省資源化に努めております。

このような環境保全活動を通じて、地球規模で起こるダイナミズムを感じとり、チャンスを先取りしながら、これからも変化を糧に、企業として柔軟かつ着実に前進したいと考えております。

当社を取り巻く環境は今後も予断を許さない状況が続くものと予想されますが、さらなる企業価値と収益力の向上に向けて全社一丸となって邁進する所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年11月

代表取締役社長　中村哲也

事業部門別の概況（連結）（2010年4月1日～2010年9月30日）

SMKが生産する数々の電子部品やコンポーネンツは、国内そして世界のエレクトロニクス業界で広く使用されています。その市場は大別すると、薄型テレビやDVDレコーダーの普及が進む「オーディオビジュアル」、カーナビゲーションシステムが進化を続ける「カーエレクトロニクス」、携帯電話に象徴される「コミュニケーション」、パソコンやATMなど生活にビジネスに欠かせない「インフォメーション」そして、デジタル家電や今後の普及が注目される太陽電池、さらには産業用機械向けの「ホームエレクトロニクス／インダストリー」です。

これら5つの分野で、つねに市場のニーズに応えた製品を開発するために、商品企画から設計、量産までを担当するのが、「CS（Connection System）事業部」「FC（Functional Components）事業部」「TP（Touch Panel）事業部」の3つの事業部と主に新規分野等の製品の設計、開発を担当する「開発センター」です。

ここでは、3つの事業部の事業部門別の概況をご報告します。

事業部ご紹介	売上高構成比	事業部門別の概況
コネクタをはじめプラグ、ジャックなどの接続部品を中心に開発・製造を行っています。小型軽量化、多極化、多機能化、高速伝送化等が求められる携帯電話の市場では、世界の大手メーカーに業界最小クラスのFPCコネクタ等を提供し、高い信頼を獲得しています。デジタル家電、カーエレクトロニクス分野でも躍進し、また、新しい分野としてソーラーシステムや、LED照明市場に向けた商品開発も進めています。	126億1千5百万円	エコポイントや補助金制度に後押しされたデジタル家電・カーエレクトロニクス向けに加え、スマートフォン・ノートPC向けが好調だった半面、携帯電話とテレビゲーム機向けはセット不振と市況の影響で減少いたしました。 現在、ソーラーシステム・LED照明市場に向けた新製品ラインナップが整いつつあります。電気自動車を含めた新エネルギー分野や医療機器向けの新製品開発も進めており、今後、環境分野・医療分野でもビジネス拡大を目指してまいります。
技術水準も売上高も世界でトップクラスにあるリモコンをはじめ、スイッチ、ユニット、モジュールが主力製品です。新発想のコンセプト・リモコン、業界最小・最薄クラスを達成している小型スイッチ、ワイドな視野角の車載用カメラモジュールなど最新ラインナップが、高度化するニーズにいち早く対応しています。	162億3千8百万円	車載を中心とした電装品向け部品、携帯電話、特にスマートフォンを中心とした通信機器分野向け部品が好調に推移いたしました。またエコポイント効果で、エアコン、住宅設備向け部品も売上に貢献いたしました。一方ゲーム機器向け部品やPC関連部品は低迷しました。今後は環境関連を含め新規分野へのビジネス拡大を図ってまいります。
高耐熱性や低反射が要求されるカーナビゲーション市場、薄型／軽量化や多彩な操作性が求められる携帯電話やパソコン市場、高い耐久性と信頼性が必要とされるATMや券売機市場など、様々な市場にタッチパネルを提供しています。業界のリーディングカンパニーとして、市場のニーズを先取りした製品を開発・製造しています。	40億7千4百万円	各国の新車販売援護策などもあり、カーナビゲーション用タッチパネルの売上が好調に推移したのに加え、スマートフォン向けタッチパネルの売上もほぼ計画通りとなりました。10月に開催されたCEATEC JAPAN 2010において紹介いたしました多数の新製品により、今後のさらなるビジネス拡大に向け邁進してまいります。

上記以外にも「その他」として7千5百万円の売上高があり、開発センターの売上高は「その他」に含まれます。

新製品ご紹介

HDMI規格タイプD準拠「HDMI規格タイプD レセプタクル」を開発

小型AV機器向けに策定されたHDMI規格（Ver1.4）タイプDに準拠した「HDMI規格タイプD レセプタクル」を開発しました。

本製品は、差動インピーダンス100Ωにマッチングし、高速伝送に対応しています。

当社独自の設計構造により、コプラナリティーの安定化とターミナルの抜けを防止しております。また、実装後にはんだ付け部を目視で確認できる構造のため、検査を容易に行うことができます。

プラグ側シールドとシェルとの接触には、ハーフロック構造の2点バネを用いることで、シェル接触信頼性を保障します。

レパートリーとして、オンボードタイプとミッドマウントタイプ2種類を取り揃えております。奥行き寸法は、オンボードタイプ：7.3mm、ミッドマウントタイプ：7.7mmと基板実装面積の省スペース化を図り、DVCなど小型AV機器用として最適です。

（注）HDMI（High-Definition Multimedia Interface）：HDMI Licensing,LLCの商標です。
オンボードタイプ：基板面上にコネクタを実装する方式
ミッドマウントタイプ：基板を切り欠いてコネクタを落とし込み実装する方式

HDMI規格タイプD レセプタクル

用途：DVC、DSCなど小型AV機器、携帯電話、スマートフォンなど

モーションコントロールセンサー搭載リモコンを開発

今後、テレビの画面操作（GUI）は、IPTVの普及により複雑になることが予想されます。

それに対応すべくこのほど、モーションコントロールによるマウス操作を遠隔で行うことができるモーションキャプチャコマンド対応リモコンを開発し、カスタム品としての受注活動を開始しました。画面操作をより簡単に行うべく、新たに開発したモーションコントロールセンサーをリモコンに搭載しました。

モーションコントロール技術は、米国Hillcrest社のFreespace® motion technologyを採用しました。従来のカーソルキー操作ではなく、ワイヤレスマウス感覚で誰でも簡単にインターネット上のアプリケーション、テレビ番組の選択、録画などテレビ画面上の操作を行えます。

本製品は、無線通信方式で2.4GHzを採用しております。そのため、指向性がなく、本体機器に向けて操作をする必要はありません。また、業界標準規格で定められているZigbee/RF4CE通信仕様に対応することが可能で、レシーバ側となるUSBドングルも現在開発中です。

モーションコントロールセンサー搭載リモコン

用途：テレビ、パソコン、セットトップボックスなど

車載仕様静電容量式タッチパネル

車載仕様静電容量式タッチパネルを開発し、受注活動を開始しました。

昨年より、携帯電話用途向けに小型静電容量式タッチパネルを販売しており、ご好評いただいておりますが、昨今、カーナビゲーションやセンターコントロール等の車載用途のタッチパネルでも、軽い操作感でマルチタッチ操作が可能な静電容量式タッチパネルが求められはじめています。

当社は、車載純正用途の抵抗感圧式タッチパネルでの10年以上の経験と実績を活かし、静電容量式タッチパネルにおいても業界に先駆けて、車載純正仕様（使用温度範囲：－30～＋85℃、保存温度範囲：－40～＋95℃）製品を開発しました。

操作性が良い本製品の市場投入により、今後ますます増えていく自動車業界からの静電容量式タッチパネル要求に応えてまいります。

車載仕様静電容量式タッチパネル

用途：カーナビゲーション、車載用センターコントロール

Bluetooth®／無線LAN コンボモジュール技術を開発

Bluetooth®と無線LAN両方の機能を搭載した通信モジュールを開発しました。

本製品は、Bluetooth®と無線LANとの異なる2つの通信方式を一つのモジュールで実現します。さらにモジュール本体を小型化することで自由度の高い設計環境を提供し、携帯端末をはじめ、多くの機器で採用をご検討いただける製品です。

今回技術開発したBluetooth®／無線LANコンボモジュールの主な特長としましては、Bluetooth®規格が最新のVersion 2.1＋EDRに準拠している点があげられます。無線LANはIEEE802.11b/gに対応しており、様々なフィールドでご使用いただくことが可能です。

今後当社は、製品化に向けさらなる作業を進めるとともにレパートリーの拡充を行い、事業の拡大を図ってまいります。

（注）Bluetooth® ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、SMKはこれら商標を使用する許可を受けています。

Bluetooth®／無線LANコンボモジュール

用途：各種携帯情報端末など

CEATEC JAPAN 2010に出展

当社は、10月5日～9日に幕張メッセ（千葉）で開催されたIT・エレクトロニクスの総合展「CEATEC JAPAN 2010」に出展いたしました。

「快適な体験、エコへの提案」をコンセプトに、タッチパネル、リモコン、スイッチなどの製品を実際に触れていただきその操作性を体験してもらいました。

中でも、抵抗感圧式マルチタッチパネルや車載仕様静電容量式タッチパネルなどの参考出品を取り揃えたタッチパネルコーナーは、多くの方々にご覧いただきお客様の注目を集めました。また、静電容量式スイッチやエッグ型エアーマウスなどの新しい技術をはじめ、SMKブランド製品として販売しておりますSMK-Link製品など、来場の皆様に、広くアピールいたしました。

エコロジーコーナーでは、LED照明用コネクタ、太陽電池モジュール用コネクタなどを展示し当社のエコへの取り組みを紹介いたしました。

5日間で当社ブースには、約5,400名の方にご来場いただき、当社の技術力を製品を通じてより深く知っていただくことができました。

ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2010に初出展

7月30日～31日にパシフィコ横浜（神奈川）で開催されました、福祉を支える人とテクノロジーの総合展「ヨコハマ・ヒューマン＆テクノランド2010」に初めて出展いたしました。フォースフィードバックタッチパネル、フットスイッチリモコン、ユニバーサルリモコンなど、障害のある方やご高齢の方にも操作のしやすい製品を展示し、ご来場の方に体験いただきました。CSR活動の一環として、福祉の分野で役立つ製品の開発にも引き続き注力していきたいと考えています。

事業所のご紹介

マレーシア　SMK Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.

創業21年のSMKマレーシアは、首都クアラルンプールから南に45㎞ほどにある自然豊かな地域で操業しています。
現在はテレビ、DVD、エアコン等のリモコンや接続部品を生産中です。マレー、インド、中国、日本、ミャンマー、ネパールの6民族が協調して生産活動に従事し、活気にあふれた工場です。

営業担当ゼネラルマネージャー　GAN TENG YEW

ASIA
SMK High-Tech Taiwan Trading Co., Ltd.
SMK Electronics (H.K.) Ltd.
SMK Trading (H.K.) Ltd.
SMK Dongguan Gaobu Factory
SMK Electronics (Shenzhen) Co., Ltd.
SMK Electronics (Shenzhen) Co., Ltd. Futian Office
SMK Electronics Technology Development (Shenzhen) Co., Ltd.
SMK Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.
SMK Electronics Int'l Trading (Shanghai) Co., Ltd.
SMK Electronics Int'l Trading (Shanghai) Co., Ltd. Beijing Office
SMK Electronics Singapore Pte. Ltd.
SMK Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
SMK Electronics (Phils.) Corporation
SMK Korea Co., Ltd.

EUROPE
SMK Europe N.V.
SMK Europe N.V., U.K. Branch
SMK Europe N.V., France Branch
SMK Europe N.V., Munich Office
SMK Europe N.V., Dortmund Office
SMK (U.K.) Ltd.
SMK Hungary Kft.

NORTH AMERICA
SMK Electronics Corporation U.S.A.
SMK Electronics Corporation U.S.A., San Jose Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., East Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Los Angeles Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Seattle Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Chicago Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Detroit Office
SMK-Link Electronics Corporation
SMK Manufacturing, Inc.
SMK Electronica S.A. de C.V.
SMK Mexicana S.R.L. de C.V.
SMK Mexicana S.R.L. de C.V., Mexico City Office

中間決算概要（連結）

中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	第89期中間期（2010年9月30日）	第88期（2010年3月31日）
（資産の部）		
流動資産	**33,197**	**33,980**
現金及び預金	7,405	8,758
受取手形及び売掛金	16,288	16,337
商品及び製品	2,652	2,469
仕掛品	669	588
原材料及び貯蔵品	2,294	2,183
その他	3,939	3,704
貸倒引当金	△52	△60
固定資産	**21,223**	**22,133**
有形固定資産	16,551	16,933
無形固定資産	423	551
のれん	274	384
その他	148	167
投資その他の資産	4,248	4,648
その他	4,459	4,880
貸倒引当金	△211	△232
資産合計	**54,420**	**56,113**

（単位：百万円）

科　目	第89期中間期（2010年9月30日）	第88期（2010年3月31日）
（負債の部）		
流動負債	**16,830**	**17,633**
支払手形及び買掛金	3,607	3,402
1 短期借入金	3,066	4,406
未払金	7,893	7,439
未払法人税等	283	197
賞与引当金	778	827
その他	1,201	1,359
固定負債	**7,092**	**7,352**
長期借入金	6,369	6,559
退職給付引当金	17	16
役員退職慰労引当金	107	152
その他	597	624
負債合計	**23,923**	**24,986**
（純資産の部）		
株主資本	**33,677**	**33,194**
資本金	7,996	7,996
資本剰余金	12,353	12,353
利益剰余金	16,365	15,798
自己株式	△3,038	△2,953
評価・換算差額等	**△3,309**	**△2,187**
その他有価証券評価差額金	159	499
為替換算調整勘定	△3,469	△2,686
新株予約権	**123**	**116**
少数株主持分	**6**	**3**
純資産合計	**30,497**	**31,127**
負債純資産合計	**54,420**	**56,113**

POINT 1

資金収支が改善され、短期借入金が88期に比べて13億4千万円減少しました。

POINT 2

円高ドル安により89期中間期の為替評価損は前年同期に比べて1億円増加し、8億4千5百万円となりました。

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	第89期中間期（自2010年4月1日 至2010年9月30日）	第88期中間期（自2009年4月1日 至2009年9月30日）
売上高	**33,002**	**32,280**
売上原価	26,775	26,771
売上総利益	**6,226**	**5,508**
販売費及び一般管理費	3,942	3,864
営業利益	**2,284**	**1,643**
営業外収益	596	710
受取利息	7	13
受取配当金	30	24
不動産賃貸料	471	478
その他	87	193
営業外費用	1,114	1,072
支払利息	83	120
不動産賃貸原価	147	152
2 為替差損	845	745
その他	37	53
経常利益	**1,766**	**1,282**
特別利益	9	109
固定資産売却益	5	59
新株予約権戻入益	2	—
償却債権取立益	—	46
その他	1	3
特別損失	69	137
固定資産除却損	68	106
投資有価証券評価損	—	0
その他	0	30
税金等調整前中間純利益	**1,706**	**1,253**
法人税、住民税及び事業税	402	250
法人税等調整額	142	61
少数株主損益調整前中間純利益	1,161	—
少数株主利益	2	—
中間純利益	**1,159**	**940**

中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	第89期中間期（自2010年4月1日 至2010年9月30日）	第88期中間期（自2009年4月1日 至2009年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,706	1,253
減価償却費	1,659	1,859
のれん償却額	75	81
退職給付引当金の増減額（△は減少）	2	0
前払年金費用の増減額（△は増加）	44	102
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△44	△258
受取利息及び受取配当金	△37	△38
支払利息	83	120
固定資産除却損	68	106
売上債権の増減額（△は増加）	△994	△2,248
たな卸資産の増減額（△は増加）	△718	365
仕入債務の増減額（△は減少）	1,385	2,097
未払金の増減額（△は減少）	697	1,435
その他	△854	121
小　　計	3,073	4,999
利息及び配当金の受取額	26	39
利息の支払額	△84	△124
法人税等の支払額	△271	△195
法人税等の還付額	38	774
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,783	5,494
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△52	—
定期預金の払戻による収入	10	—
有形固定資産の取得による支出	△1,819	△1,389
有形固定資産の売却による収入	14	160
投資有価証券の売却による収入	0	20
貸付けによる支出	△30	△39
貸付金の回収による収入	94	83
その他	△8	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,791	△1,160
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△1,327	△3,699
長期借入金の返済による支出	△202	△228
自己株式の取得による支出	△85	△18
自己株式の売却による収入	0	2
配当金の支払額	△589	△247
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,203	△4,191
現金及び現金同等物に係る換算差額	**△202**	**△257**
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	**△1,414**	**△115**
現金及び現金同等物の期首残高	**8,749**	**9,072**
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	**—**	**47**
現金及び現金同等物の中間期末残高	**7,335**	**9,004**

株式の状況（2010年9月30日現在）

発行可能株式総数…… 195,961,274株
発行済株式の総数…… 79,000,000株
株主数…… 11,372名

大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
日本生命保険相互会社	4,001	5.43
株式会社みずほコーポレート銀行	3,663	4.97
大日本印刷株式会社	3,200	4.34
株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行	3,134	4.25
三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社	1,937	2.63
ＳＭＫ協力業者持株会	1,846	2.50
池田彰孝	1,537	2.08
財団法人昭和池田記念財団	1,500	2.03
日本トラスティ･サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,464	1.99
ＳＭＫ社員持株会	1,427	1.94

（注）当社は自己株式5,268千株を保有しておりますが、上記株主からは当社を除いており、また、上記持株比率は自己株式を除外して算定しております。

株価チャート【月足】

コーポレートデータ（2010年9月30日現在）

会社概要

●商号	SMK株式会社
●英文社名	SMK Corporation
●設立	昭和4年（1929年）1月15日
●主たる事業	電気通信および電子機器等用部品の国内および海外における製造・販売
●資本金	7,996,828,021円
●従業員数（SMKグループ）	12,594名
●本社	〒142-8511　東京都品川区戸越6丁目5番5号 TEL（03）3785-1111（大代表） FAX（03）3785-1878 ホームページアドレス http://www.smk.co.jp/

役員一覧

取締役および監査役

代表取締役社長	中村哲也
代表取締役副社長	池田靖光
取締役常務執行役員	山田一
取締役常務執行役員	櫻井慶雄
取締役	棚橋祐治
常勤監査役	池田彰孝
常勤監査役	小林健二
監査役	小林秀文
監査役	杉原幸一郎
監査役	中島成

執行役員

常務執行役員	角芳幸
常務執行役員	ポール・エバンス
執行役員	松本秀夫
執行役員	歌崎晃
執行役員	若林幹雄
執行役員	磯田勉
執行役員	宮川宏
執行役員	柳茂哉
執行役員	石橋竹己
執行役員	大垣幸平

事業所一覧

●ゲートシティオフィス　〒141-0032
東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎　イーストタワー18階
TEL（03）3785-1111（大代表）

●大阪支店　〒535-0021
大阪府大阪市旭区清水4-3-11
TEL（06）6953-7222（代）

●名古屋支店　〒453-0014
愛知県名古屋市中村区則武1-19-13　KSビル6階
TEL（052）453-3011（代）

●茨城営業所　〒319-1301
茨城県日立市十王町伊師20-9
TEL（0294）20-2144

●神奈川営業所　〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL（046）262-0710

●福岡営業所　〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前3-25-24
八百治ビル6階
TEL（092）472-7236

●北陸営業所　〒939-2366
富山県富山市八尾町保内1-1
TEL（076）455-1213

●富山事業所・富山テクノロジーセンター
〒939-2366
富山県富山市八尾町保内1-1
TEL（076）455-1212（代）

●ひたち事業所　〒319-1301
茨城県日立市十王町伊師20-9
TEL（0294）20-2111（代）

●大和事業所　〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL（046）262-0711

●やまと流通センター　〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL（046）262-6861

●海外拠点　台湾・香港・中国・シンガポール・フィリピン・韓国・マレーシア・ベルギー・ドイツ・イギリス・フランス・ハンガリー・アメリカ・メキシコ

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月開催（年一回）
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会の基準日	3月31日 上記のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
公告掲載URL	http://www.smk.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告とすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場取引所	東京証券取引所（市場第一部）
証券コード	6798
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）　インターネットアドレス http://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関するお問合せ先・お手続き先】

株式に関するお問合せ先および株主様の住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、特別口座から証券会社の口座へのお振替、配当金のお振込等のお手続き窓口は、次のとおりとなります。

1．証券会社の口座で株式をご所有の株主様：株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
2．特別口座で株式をご所有の株主様：三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
（上記株主メモの「株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関」をご参照ください。）

なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【単元未満株式（1,000株未満の株式）の買増・買取請求のご案内】

単元未満株式をご所有の株主様は、1,000株に不足する数の株式を当社から買い増し、単元株とすることができます。また、ご所有の単元未満株式を時価にて当社にご売却することもできます。なお、当社は、単元未満株式の買増・買取請求にかかる手数料は無料(注)です。

（注）証券会社等に支払う取次手数料につきましては、お取引のある証券会社等にお問合せください。

【特別口座から証券会社の口座へのお振替のご案内】

特別口座に記録された株式は売買ができませんので、特別口座から証券会社へのお振替をお奨めいたします。

【配当金のお振込によるお受取りのご案内】

配当金のお振込先をご指定いただきますと、配当金は当社からご指定の口座へ直接お振込みさせていただくことになり、安全かつ確実に配当金をお受け取りいただけます。

ぜひ、この機会に上記お手続きをご検討ください。

SMK株式会社

〒142-8511　東京都品川区戸越6丁目5番5号
TEL (03) 3785-1111 (大代表)　FAX (03) 3785-1878
ホームページアドレス　http://www.smk.co.jp/

表紙に掲載されている製品写真は、当社の新製品です。
「新製品ご紹介」（7、8ページ）で詳しくご紹介しております。

VEGETABLE OIL INK